

平成 22 年
8 月 26 日

病害虫発生予報 9 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう
平成 22 年度農薬危害防止運動実施中です (6/15 ~ 9/14)

< 目 次 >

. 今月の予報	
【注意すべき病害虫】	
ダイズ：チョウ目幼虫	1
サツマイモ：チョウ目幼虫（ナカジロシタバ等）	1
ナシ：ナシヒメシンクイ	2
ブドウ：べと病	2
ブドウ：褐斑病	3
果樹共通：カメムシ類	3
アブラナ科野菜共通：ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイムシ）	4
共通害虫：オオタバコガ	4
共通害虫：ハスモンヨトウ	5
【その他の病害虫】	5
水稻，ダイズ，ナシ，ブドウ，カキ，クリ，抑制トマト，抑制キュウリ，抑制ピーマン， 秋冬ネギ，夏秋ナス	
. 病害虫ミニ情報	
病害虫発生予察情報とは	7
. 今月の気象予報	
9	
最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報検索システム」(http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtIIm000.html)で確認することができます。	
詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445 予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/	

・今月の予報

【注意すべき病害虫】

ダイズ

1. チョウ目幼虫

【予報内容】

発生時期	発生量	発生地域
-	多い	県下全域

【予報の根拠】

8月下旬現在，寄生虫数は平年より多く，発生地点率は平年より高い。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高く，降水量は平年より少ないと予想され，発生を助長する条件である。

【防除上注意すべき事項】

老齢幼虫になると，薬剤が効きにくくなるため，圃場をよく見回り，若齢幼虫のうちに防除を行う。

薬剤散布の際は，葉裏や着莢部にも薬剤がかかるように丁寧に行う。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるために，同一系統の薬剤は連用しない。

(平成22年8月26日発表の病害虫情報 No.9 参照)

サツマイモ

1. チョウ目幼虫（ナカジロシタバ等）

【予報内容】

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

【予報の根拠】

8月下旬現在，被害葉率及び発生地点率は平年より高い。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高く，降水量は平年より少ないと予想され，発生を助長する条件である。

【防除上注意すべき事項】

ナカジロシタバは，第三世代幼虫の被害が最も大きい。ナカジロシタバ第三世代幼虫の発生は，9月上旬頃からと予想される。老齢幼虫になると食害量が多くなるので，若齢～中齢幼虫の時期（丸く穴の開いた葉が散見される時期～葉面積の25%程度を食害された葉が目立つ時期）の防除に努める。

薬剤散布の際は，幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。

ナ シ

1. ナシヒメシンクイ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在，被害果率及び発生地点率は平年より高い。

8月下旬現在，第三世代成虫のフェロモントラップ（笠間市，土浦市）への誘殺数は平年より多い。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高く，降水量は平年より少ないと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

早生品種（「幸水」など）で被害果が目立った場合は，晩生品種（「豊水」など）を対象に，収穫前日数に注意して薬剤散布を行う。

薬剤散布は，10a 当たり 300 リットルを目安に，散布圧および散布速度を調節し，縦横の井桁走行を行うなど，かけむらのないよう丁寧に行う。圃場の周縁部など，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

被害果は，速やかに水に浸漬するか，土中深く埋める。

ブドウ

1. ベと病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在，発病葉率及び発生地点率は平年より高い。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高く，降水量は平年より少ないと予想され，発生を助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

多発した圃場では，果実収穫後の防除を徹底する。

病原菌の翌年への越冬を防ぐため，早期に落ちた葉は回収し，適切に処理する。

薬剤散布は，10a 当たり 250 リットルを目安に，散布圧および散布速度を調節し，縦横の井桁走行を行うなど，かけむらのないよう丁寧に行う。圃場の周縁部など，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

(ブドウ 続き)

2. 褐斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在，発病葉率及び発生地点率は平年より高い。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高く，降水量は平年より少ないと予想され，発生を助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

多発した圃場では，果実収穫後の防除を徹底する。

病原菌の翌年への越冬を防ぐため，早期に落ちた葉は回収し，適切に処理する。

薬剤散布は，10a 当たり 250 リットルを目安に，散布圧および散布速度を調節し，縦横の井桁走行を行うなど，かけむらのないよう丁寧に行う。圃場の周縁部など，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

果樹共通

1. カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

8月第3半旬現在，予察灯（かすみがうら市）への果樹カメムシ類の誘殺数は，平年よりやや多い。クサギカメムシ，ツヤアオカメムシの誘殺数は平年より多く，チャバネアオカメムシは平年並である。

8月中旬現在，主な生息地であるヒノキ林での果樹カメムシ類成虫の発生量は平年よりやや多く，今後主要な餌であるスギ及びヒノキの球果が不足すると，果樹園への飛来が増加すると予想される。

8月下旬現在，ナシ及びカキの被害果率は平年並～やや低い。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高く，降水量は平年より少ないと予想され，果樹園への飛来を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

夜温が高いと活動が盛んになり，果樹園へ飛来するので注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合には，収穫前日数に十分注意して，活動が鈍い早朝に薬剤防除を行う。

同一系統の薬剤は連用しない。

薬剤を散布する場合は，農薬のラベルに書いてある農薬の使用基準を遵守するとともに，周囲に飛散（ドリフト）しないよう十分注意する。

（平成 22 年 8 月 26 日発表の病害虫情報 No.10 参照）

アブラナ科野菜

1. ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い~多い	県下全域

[予報の根拠]

8月中旬現在、笠間市で実施している誘致植物(クレオメ)を用いた発生予察調査において、ハイマダラノメイガ幼虫の寄生虫数は、平年よりやや多い。

8月中旬現在、水戸市のキャベツ圃場で被害株を確認した。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

本虫は、アブラナ科野菜の幼苗期(育苗期や本圃での生育初期)に、幼虫が生長点付近を加害する。このため、この時期に加害されると芯止まりになるので、早期発見、早期防除に努める。また、定植時の粒剤施用は被害を未然に防ぐために有効である。

今後、9月中旬にかけて発生量がさらに増加すると予想されることから、この時期に播種や育苗・定植を行うアブラナ科野菜は特に注意する。また、その後も10月上旬頃までは発生が続くので、引き続き注意する。

苗床は、防虫ネット(1mm目合い程度)などで覆い、成虫の侵入を防ぐ。

薬剤は、薬液が株の中心部や葉裏にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、同一系統の薬剤は連用しない。

(平成22年8月24日発表の病害虫情報 No.8 参照)

共通害虫

1. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在、フェロモントラップへの雄成虫の誘殺数は、龍ヶ崎市、土浦市、筑西市で平年より多い。

8月下旬現在、ナスにおける寄生虫数は平年よりやや多い。また、抑制トマト、ダイズ等においても被害を確認している。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

幼虫の齢期が進むにしたがって薬剤の殺虫効果は低くなるため、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。

レタスでは、結球内に幼虫が食入するとその後の防除が困難になるため、発生初期及び結球始期の防除を徹底する。また、被害を未然に防ぐために薬剤の育苗トレイ灌注は有効である。

(共通害虫 オオタバコガ 続き)

トマト、ピーマン等では、収穫終期まで加害を続けるので、発生しているハウスでは防除を徹底する。

薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発生を抑えるために、同一系統の薬剤は連用しない。

施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネットを展張し、成虫の侵入防止に努める。

(平成22年8月26日発表の病害虫発生予察注意報第2号参照)

2. ハスモンヨトウ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在、フェロモントラップへの雄成虫の誘殺数は平年並～やや多い。

8月下旬現在、発生量はダイズ及び抑制キュウリで平年よりやや多く、抑制トマト及び抑制ピーマンで平年並である。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

幼虫の齢期が進むにしたがって薬剤の殺虫効果は低くなるため、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。

ダイズでは、白変葉(若齢幼虫の集団加害によって白く透けた葉)の発生を防除の目安とする。

レタス等では、結球内に幼虫が入るとその後の防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。また、被害を未然に防ぐために薬剤の育苗トレイ灌注は有効である。

薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発生を抑えるために、同一系統の薬剤は連用しない。

施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネットを展張し、成虫の侵入防止に努める。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水稲	コブノメイガ	発生量： -	8月下旬現在、飼料用稲で多発している圃場が見られる。飼料用稲等の周辺に比べて田植えが遅い水田では、発生に注意する。
ダイズ	紫斑病	発生量： -	防除適期は開花期の20日後頃である。連続した降雨が続く場合は、開花30日後に追加防除を行う。なお、県内では、チオファネートメチル剤に対する耐性菌が出現しているため、それ以外の薬剤を使用し、2回目の防除を行う際は系統の異なる薬剤を散布する。
	カメムシ類	発生量：平年並	8月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。予察灯(水戸市)への誘殺数は平年よりやや多い。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
ナシ	黒星病	発生量： -	多発した圃場では、収穫後の防除を徹底する。特に、徒長枝に薬液が十分かかるように薬剤散布を行う。
	ハダニ類	発生量： 平年並 ～ やや多い	8 月下旬現在，平年並の発生である。気象予報によると，向こう 1 か月の気温は平年より高く，降水量は平年より少ないと予想され，発生を助長する条件である。
ブドウ	晩腐病	発生量： 平年並	8 月下旬現在，平年並の発生である。
カキ	炭疽病	発生量： 平年並	8 月下旬現在，平年並の発生である。
クリ	炭疽病 (実炭疽病)	発生量： 平年並	8 月下旬現在，平年並の発生である。
抑制トマト	タバココナジ ラミ	発生量： 平年並	8 月下旬現在，平年並の発生である。
抑制キュウリ	ハダニ類	発生量： やや多い	8 月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ミカンキイロ アザミウマ	発生量： やや多い	8 月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ハモグリバエ 類	発生量： やや多い	8 月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
抑制ピーマン	タバココナジ ラミ	発生量： 平年並 ～ やや多い	8 月下旬現在，平年並～ やや多い発生である。
秋冬ネギ	ネギアザミウ マ	発生量： 多い	8 月下旬現在，平年よりやや多い発生である。気象予報によると，向こう 1 か月の気温は平年より高く，降水量は平年より少ないと予想され，発生を助長する条件である。
夏秋ナス	うどんこ病	発生量： やや多い	8 月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ミナミキイロ アザミウマ	発生量： やや多い	8 月下旬現在，平年よりやや多い発生である。

病害虫発生予察情報とは

- その内容と用語の解説 -

病害虫防除所では、農作物の被害を未然に防ぐため病害虫の防除を的確に行ってもらうことを目的として、病害虫の発生を予測し、その概況や防除対策に関する情報を予察情報として提供しています。そこで今回の病害虫ミニ情報では、発信している予察情報を有効に活用していただくため、その種類や用語についてご紹介します。

1. 予察情報の種類

(1) 定期情報

病害虫発生予報

向こう1か月の病害虫の発生予想を毎月1回(月末)発表します。

(2) 臨時情報

病害虫発生予察警報

重要な病害虫が大発生することが予想され、かつ早急に防除措置を講ずる必要が認められる場合に発表します。過去には平成5年に水稻のいもち病で発表しました。

病害虫発生予察注意報

警報を発表するほどではないが、重要な病害虫が多発することが予想され、かつ早急に防除措置を講ずる必要が認められる場合に発表します。

病害虫情報

注意報を発表するほどではないが、重要な病害虫の発生が懸念され、何らかの防除措置を講ずる必要が認められる場合に発表します。あるいは病害虫の発生状況について新たな知見が得られた場合に発表します。

病害虫発生予察特殊報

県内で新たな病害虫の発生が確認された場合及び、重要な病害虫の発生活長に特異な現象が認められた場合に発表します。

2. 予察対象作物

平成22年度は以下の18作物で256種類の病害虫について予察情報を発表しています。

普通作物	水稻, 麦類, ダイズ, サツマイモ
果樹	ナシ, ブドウ, カキ, クリ
施設野菜	イチゴ, メロン, 促成・半促成・抑制ピーマン, 促成・抑制トマト 促成・抑制キュウリ
露地野菜	スイカ, 秋冬・春ハクサイ, 冬・春レタス, 夏・秋冬ネギ, 夏秋ナス

3. 病害虫の発生状況について

病害虫の発生情報内容は発生時期と発生量をそれぞれ5段階で区分しています。

(1) 発生時期

区分	範囲
早い	平年値より6日以上早い
やや早い	平年値より3~5日早い
平年並	平年値を中心として前後2日以内
やや遅い	平年値より3~5日遅い
遅い	平年値より6日以上遅い

(2) 発生量（発病度，発病株率，被害度，寄生株率等）

区分	範囲
多い（高い）	現状：過去 11 年と比較して 1 位～2 位の発生量である 予測： " になると予想される
やや多い（やや高い）	現状：過去 11 年と比較して 2 位～4 位の発生量である 予測： " になると予想される
平年並	現状：過去 11 年と比較して 4 位～8 位の発生量である 予測： " になると予想される
やや少ない（やや低い）	現状：過去 11 年と比較して 8 位～10 位の発生量である 予測： " になると予想される
少ない（低い）	現状：過去 11 年と比較して 10 位～11 位の発生量である 予測： " になると予想される

発生量の区分は，表中の範囲の他に発生地点率等を考慮して決定します。

4. その他

(1) 病害虫発生予報に掲載する病害虫

定期情報の病害虫発生予報に掲載する病害虫は，以下の内容で区分けします。

注意すべき病害虫

向こう 1 か月に発生が懸念され注意を要する病害虫や，例年その月に発生が問題となる病害虫等，防除に注意してほしい病害虫について記載します。

その他の病害虫

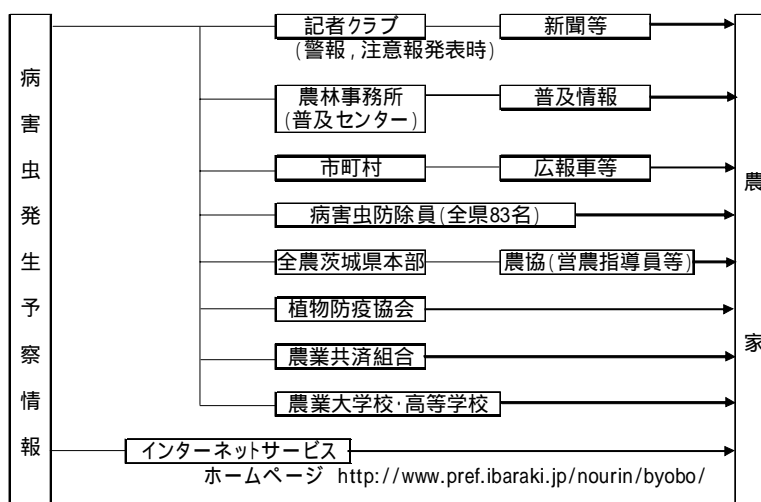
注意すべき病害虫ほどではないが，例年より発生が多くみられる等注意を要する病害虫や，特異的な発生が見られる病害虫等について記載します。

(2) 病害虫発生予察の根拠

発生予察は， 県内生産圃場調査（計 276 地点）やフェロモントラップ調査（9 種），予察灯等による現在の病害虫の発生状況， 気象要因（過去データや長期予報）， 病害虫の特徴等の様々な情報を根拠にしています。

(3) 情報の発表方法

情報発表時の体制は以下のとおりです。県の各機関や市町村，及びその他関係機関に電子メールや印刷物で送付しています。また，ホームページではリアルタイムに情報を更新している以外に，病害虫発生予察警報や注意報では記者発表を行い，広く注意を呼びかけるようにしています。



・ 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 8 月 21 日から 9 月 20 日)

気象庁 (8 月 20 日 発表)

< 特に注意を要する事項 >

期間の前半は、気温の高い状態が続く見込みです。

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	10	20	70
降水量	関東甲信全域	40	30	30
日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[概要]

天気は、平年と同様に期間の前半は晴れの日が多く、期間の後半は数日の周期で変わるでしょう。

< 1 週目の予報 > 8 月 21 日 (土曜日) から 8 月 27 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 80%

< 2 週目の予報 > 8 月 28 日 (土曜日) から 9 月 3 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 70%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 9 月 4 日 (土曜日) から 9 月 17 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 50%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散 (ドリフト) しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。